

第2学年「総合的な学習の時間」学習指導案

令和4年11月25日（金）3・4校時

指導者 2学年所属職員

研究主題 ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育の充実
～系統的な体験学習プログラム構築を通して～

1 単元名

「長与町の課題を解決するために何ができるか考えて実践することで、長与町に貢献する。」

2 単元の目標

1年時に考えた長与町の課題を解決するため、2年生で課題解決のための体験学習プログラムに取り組む中で、長与中学校で設定した11の資質・能力の向上を目指す。

3 単元設定の理由

（1）生徒観

令和3年度（1年時）の10月に実施したアンケート結果は次のとおりである。（単位％）

レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
できない	意識はできる	方法を考えることができる	できる	周りに影響を与えることができる

【自分自身の個性や適性を理解する力】

6.8	15.5	34.2	29.2	14.3
-----	------	------	------	------

【郷土の現状を考え、自分に何ができるかを積極的に考え実行する力】

0.0	8.7	49.7	36.0	5.6
-----	-----	------	------	-----

【将来、ふるさとのために役立てる力】

0.6	36.0	34.8	23.0	5.6
-----	------	------	------	-----

1年間総合的な学習の時間の郷土学習を軸にキャリア教育に取り組んできたが、アンケートの結果から「自己の個性や適性を理解する力」に課題があることがわかった。また、「郷土の現状を考え、自分に何ができるかを積極的に考え実行する力」については、1年時に取り組んだ「ふるさと長与を知る」ための体験活動などの成果が現れている。「将来、ふるさとのために役立てる力」については、自己の将来とふるさとの将来をつなげて考えることができている生徒が多い。本学習を通して自分の将来をふるさと長与町と関連付けて考え、キャリア発達のスタートである自己理解の力を高めていく必要がある。

（2）単元観

本単元は、中学校総合的な学習の時間学習指導要領第1の目標と、本校の教育目標である「豊かな知性や人間性を身に付け、たくましく自分の人生を切り拓いていく生徒の育成」を踏まえて設定された探究課題である「長与町の課題を解決するために何ができるか考えて実践することで、長与町に貢献すること。」と、「探究課題の解決を図ることによる資質・能力の育成」、「探究課題を解決するための体験活動」の3つによって構成されている。

本校では、3年間で取り組む郷土学習を系統的な体験学習プログラムとして設定している。第1学年で「ふるさと長与の良さと課題を知る」、第2学年で「ふるさと長与の課題を解決する」、第3学年で「ふるさと長与の魅力を創出し発信する」というテーマで学習に取り組む。第1学年では、自分が住んでいる地域に出向き、地域の方から地域の実情を学ぶことによって、様々な魅力や現実的な課題を見つけた。第2学年では、これまでに学んだ地域の課題を解決するための活動を計画し、地域の方とともに活動に取り組むことによって、課題解決に向けてアプローチしていく。生徒にとって、具体的に実行可

能な活動などを試行錯誤する中で、探究活動を計画・修正する力や、集めた情報を整理・分析し、相手や目的、意図に応じてわかりやすく、論理的に表現する力などを高めることができる学習である。また、ふるさと長与に貢献するために自分に何ができるかを考え、主体的に課題解決を図ることで、将来長与町のために役に立ちたいという意欲や態度など、ふるさとを担う実践力を高めるのにふさわしい単元である。

(3) 指導観

指導に当たっては、3年間を通して、生徒が主体的に考えた活動をできる限り実践可能なものにしていくこと、外部のキャリア教育コーディネーターと一緒に学習を進めることを意識した。また、3年間活動するコースを同じにし、1年時から、2年生になったらどのような形で課題を解決するのかを考え、具体的な見通しを持たせた上で、2年生での活動に取り組んだ。生徒の活動が主体的になるために、できる限り生徒の興味・関心が反映された班設定を行い、1コースの中に3～4の活動班ができるコースもあった。また、教員とキャリア教育コーディネーターが事前に十分な打合せを行い、体験活動の準備をした。また、計画・立案、情報収集、活動実践、まとめの各段階で、「自分が将来、ふるさと長与のために何ができるか」という意識を持たせる指導も行った。第3学年では、第1学年、第2学年で学んだことを基に、長与町の魅力を創出し発信する活動に取り組む。ふるさとの一員として課題解決に臨む中で、自分自身のキャリア発達について具体的な将来像が描けるような指導をしていく。

4 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 地域の方との交流や資料を用いて、地域の魅力や課題を理解している。 ② 地域の特色について学び、得た知識を生かし、地域の課題解決のために、探究的な活動を企画し、実行することができる。 ③ 自分たちの地域貢献のための活動が、地域の活性化や今後の自分自身の将来の生き方に深く関わっていることを理解している。	① 地域の課題解決のためにできることを考え、体験活動を企画し、見通しをもって計画を立てている。 ② 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して収集し、種類に合わせて蓄積し、比較・分析している。 ③ 集めた情報や体験活動について、整理・分析し、相手や目的、意図に応じて分かりやすく、論理的に表現している。	① 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ② 地域に貢献する活動の取組を考えたり実行したりする中で、得た知識や、友達や地域の方々の考えなど異なる意見や考えを生かしながら、協働して学び合おうとしている。 ③ 地域の現状や課題を考えたり、地域に貢献する活動を企画し実践したりすることを通して、自己の生き方を考え、今後の学習や生活の在り方に生かそうとしている。

5 単元の指導、評価計画（全55時間） ※CC：キャリア教育コーディネーター

月	時	小単元名	ねらい・学習課題	知	思	主	評価方法
4	1	ふるさとキャリア学習と今年度のねらいについて理解し、今後の見通しを持つ。	・ふるさとキャリア学習の概要を理解し、学習の見通しを立てる。 ・年間のスケジュールを確認する。	①	①		アンケート ワークシート 行動観察
5	1	地域のために貢献できることを考えよう。	・昨年度の「ふるさとを知る」活動を通して学んだことを、グループで再確認する。 ・昨年度学んだふるさとの魅力と課題を基に、地域に貢献する視点を持って活動内容を検討する。	①	②	①	ワークシート 行動観察

6・7	1 3	地域貢献活動の計画を立てよう。	・活動を実現するために、協力を依頼するCCを検討する。 ・CCに協力を依頼する内容を計画する。 ・1 2時間の体験活動の内容について計画を立て準備する。	②	①	②	ワークシート 行動観察
	1 2	体験活動を通して、地域に貢献しよう。	・計画に沿ってCCの協力を受けながら体験活動を行う。	②	①	①	活動の記録 行動観察
9	7	体験したことを振り返ろう。	・体験活動の実践内容や成果をまとめる。	①	②		ワークシート 行動観察
10・11	1 5	プレゼンテーションの準備をしよう。 プレゼンテーションの準備をしよう。	・体験し学んだ内容をポスターやスライド等にまとめ、プレゼンテーションに向けた準備をする。 ・プレゼンテーションの発表形態を検討する。 ・発表に向けての練習、準備をする。		② ③	②	ワークシート 行動観察
	4	【本時】 今年度の取組について発表を行う。	・体験し学んだことや今後の取組について発表を行う。	③	③		成果物 プレゼンテーション 行動観察
	2	これまでの活動を振り返り、来年度の活動への見通しを立て、今年度の活動内容を1年生と共有し、活動を引き継ぐ。	・来年度の「地域の新たな魅力を発信する」活動に対するアイデアを出し合う。 ・今年度取り組んだ内容を1年生に伝え、必要に応じて取組内容の引継ぎを行う。	③		③	ワークシート アンケート 行動観察

6 本時の展開 (50・51・52・53/55 時間)

(1) 本時のねらい

- 集めた情報や体験活動について、整理・分析し、相手や目的、意図に応じて分かりやすく、論理的に表現することができる。【思・判・表③】
- 自分たちの地域貢献のための活動が、地域の活性化や今後の自分自身の将来の生き方に深く関わっていることを理解することができる。【知・技③】

(2) 展開 (時間)

時間 導入 2分 ／	学習活動及び予想される生徒の反応		○教師の支援 ◆評価基準及び評価の方法
	1	発表会のテーマや内容について確認する。	○司会進行は全て生徒が行う。
	(めあて) 「ふるさとに貢献する」 長与町の課題解決のために実践したことを分かりやすく報告することができる。		
	2	1年時の「ふるさとを知る」活動について振り返り、確認する。 (文化コース・福祉コース・環境コース・産業コース)	○学習の経緯のスライドを示しながら、本時の活動内容を確認する。

展開① 65分	3 コースごとにプレゼンテーションを行う。 (各コース15分) 4 発表に対する講評を頂く。	◆評価基準及び評価の方法 【思・判・表③】 プレゼンテーションの工夫の仕方や話し方 【知・技③】 プレゼンテーションの中に、地域の活性化や自分たちの生き方につながる内容がある。 ○まともは司会の最後の挨拶の中で行う。
終末① 8分	(まとめ①) ○「ふるさとに貢献する」活動を通して得た気づきや成果こそ、ふるさとの魅力である。また、発表会に向けて準備し、目的意識を持って発表・説明することを通して、来年度の「ふるさとの魅力を発信する」活動への見通しを持つことができた。	
展開② 25分	5 コース別ブースセッションの内容について説明する。 ～休憩 10分～ 6 各コースでブースセッションを行う。それぞれのブースでの発表ごとに、適宜質疑応答を行う。	◆評価基準及び評価の方法 【思・判・表③】 プレゼンテーションの工夫の仕方や話し方 【知・技③】 プレゼンテーションの中に、地域の活性化や自分たちの生き方につながる内容がある。
終末② 3分	7 各ブースで発表の振り返りを行う。 (まとめ②) ○発表や質疑応答を通して、自分たちの「ふるさとに貢献する」活動を振り返り、来年度の「ふるさとの魅力を発信する」活動への見通しや課題を持つことができた。	

(3) 評価

- 「ふるさとに貢献する」体験活動を通して得た気づきや課題を整理・分析し、グラフや図、写真等を使って分かりやすくまとめ、表現することができたか。
- 「ふるさとに貢献する」体験活動や、その活動内容について発表することを通して、自分たちの取組が、地域の活性化や今後の自分自身の将来の生き方に深く関わっていることに気付いたか。